



帯広市立大空小学校 校長
川上裕明(かわかみ・ひろあき)さん

北海道

帯広市立大空小学校の取り組み

北海道帯広市立大空小学校では、全校児童324名のうち13名が外国籍で、うち8名がイスラム教を信仰。ラマダン(断食月)の時期の給食に配慮したり空き教室に礼拝室を設けたりしている。

日本語指導が必要な児童にはタブレット端末等を使い、日本語の練習や授業の補助をしている。2020年度からは多言語に対応した翻訳機「ポケット」が帯広市教育委員会から支給され、よりコミュニケーションが円滑にとれるようになった。19年にJICAの海外研修プログラムに参加しキルギスを訪問した教員による、体験を生かした授業実践や、教員と保護者に向けた文化紹介なども校内に新しい風を運んでいるという。

校長の川上裕明さんは、「本来であれば、外国籍の児童のため、日本人の児童のためという区分がなくなることが理想ですが、現状では外国籍児童には特別な支援が必要です。児童には外国籍児童がいるこの環境でより多くのことを学び、感じとり、「他者と協働して主体的に問題を解決する力」を身につけてほしいと思っています。また学校の近くにはJICA帯広の拠点があるため、校外でも外国籍の方が身近にいて当たり前で、自然に異文化理解が深まっているのを感じています」と語った。

**各拠点の情報は
こちらから!**



12 沖縄センター

○ 指導者養成講座
(初級編、中上級編、オンライン編)

国際理解・開発教育に取り組んでいる、取り組みたい教員に対してワークショップや教材体験を提供する講座。中上級編では初級編の過年度参加者を中心に教材づくり、授業づくりの意見交換の場を提供する。オンライン編では、コロナ禍下において急増したオンライン授業、オンデマンド教材の作成について、先行している取り組みの共有および授業づくりのヒントを提供する。

11 九州センター

○ 開発教育指導者研修

教育関係者をおもな対象とした国内研修。2021年1月から「開発教育ファシリテーター入門編」(オンライン形式3回)、「開発教育実践編」(対面式2回)、「SDGs編」(オンライン形式2回)としてオンラインと対面で研修を予定している。

8 関西センター

○ 第17回多文化共生のための
国際理解教育・開発教育セミナー

JICA関西を含む6者による共催で、今回が初のオンライン開催となった同セミナーは、世界のさまざまな状況や課題を理解し、学校の授業で生かせる教材やワークショップの活用・実践方法を学び、参加者間のネットワークを醸成することを目的としている。2020年度は難民・平和やプラスチックごみ問題を通じて考える国際理解・環境・SDGsを学ぶワークショップ、滋賀県のブラジル人学園と中継したICT・多文化共生・SDGs学習など幅広いテーマを扱い、3日間でべ113名が参加した。

9 中国センター

○ 開発教育教員研修アドバンスコース

広島県のイスラム文化センター、岡山県の長島愛生園歴史館(ハンセン病施設)や島根県出雲市の「日本語初期集中指導教室」など、中国地方でのフィールドワークを通して教師海外研修過年度参加者が継続的な学びと取り組みを実践することをサポートする。研修を通して広く一般の方にも使ってもらえる「共生社会を考える教材」を作成予定だ。

○ 2020年度国際教育研修会

教員や教員を目指す学生などを対象に毎年2回行っている国際教育研修会。毎回異なる講師を招き、多様なテーマを設定している。中国地方で活躍する教員の模擬授業を含め、すぐに使える教材体験を通して、授業の実践方法について考える。第2回を1月30日(土)に開催予定。

10 四国センター

○ 「SDGsを学校で」連続オンラインセミナー・講演会(全3回)

SDGsを基礎から学べる、全3回のオンラインセミナーと講演会。四国国際理解教育研究会との共催で、開発教育について知見豊富な開発教育協会(DEAR)や四国で国際理解教育に積極的に取り組む学校から校長・教員を講師として招いて実施された。

7 中部センター

○ JICA中部・開発教育ナビゲーター

19年度から新たに設けられた開発教育ナビゲーター制度。中部4県の開発教育において実践経験豊富な教諭7名に委嘱した。「異文化理解」「SDGs」「多文化共生」「人権」「郷土学習」など、学年や地域のニーズに合わせて開発教育・国際理解教育に関心を持っている教員に向けてその魅力を発信していく。

○ 2020年度教師海外研修
ガイドブック作成特別編

新型コロナウイルスで海外研修が中止となったことを受けて、教師海外研修16年の積み重ねから成果と課題をふり振り返り、今後の教師海外研修の受講者向けに、よりよい国際理解教育の実践と波及のためのガイドブックを作成する研修を実施中。

1 北海道センター(札幌)

○ 国際理解教育オンラインセミナー

JICA北海道では、現役教員や国際理解教育の実践に興味を持つ人向けに「国際理解教育セミナー」を年に3回開催している。2020年度はZoomやYouTube配信のオンラインで多文化共生編、SDGs入門編が開催され、最終回のSDGs実践編は2月20日(土)を予定している。

2 北海道センター(帯広)

○ おびひろ市民学

2020年度から帯広市の中学校では必須単元として、中学生の視点で今の帯広市に必要と思うSDGsのゴールを目指すための取り組みを検討する学習が実施されている。その学習の一環として、市内全14校の対象学年の生徒に対しJICA北海道(帯広)職員によるプログラムを提供。20年度は市内の中学生約1,300人を対象にプログラムを実施した。

3 東北センター

○ 開発教育指導者研修

国際理解・開発教育に関心のある教員やJICA海外協力隊経験者などを対象とした、開発教育・国際理解教育実践のための研修。2020年度はオンラインでの開催となった。新学習指導要領前文にもある「持続可能な社会の創り手」を考えるワークショップなどが行われた。

4 筑波センター

○ 国際理解教育実践セミナー

国際理解教育や開発教育の実践に関心を持つ教員向けの実践セミナー。国際理解教育、開発教育の基本や考え方、授業での実践方法のヒントを紹介している。今年度は「SDGs(持続可能な開発目標)」を主軸とし、SDGsと国際理解教育の各テーマを関連づけながらオンライン形式で開催した。

5 東京センター

○ 教師海外研修代替国内研修

これまでJICAが実施していた教師海外研修の代替研修として2020年度に新たに実施されることになった研修。東京センターでは、派遣予定国であったザンビア、パラグアイとの国際協力に携わる国内の関係者の紹介を目的としたオンラインセミナーと視察、さらに授業実践のための検討会を開催。今後授業の実践報告と来年度に向けた研修も実施予定だ。

6 横浜センター

○ 2020年度JICA横浜教師国内研修

国際理解教育や開発教育に取り組む神奈川県と山梨県の小・中・高の教員を対象とした研修。「多文化共生～困難を豊かさに変えるプロセス～」をテーマに、国際理解教育・開発教育の実践に役立つオンライン講義、インタビュー、ビデオレター、フィールドワークを実施した。
*「2020年度教師海外研修」の代替研修として実施。

○ 国際理解教育・開発教育教員セミナー

神奈川県・山梨県内の教員や教育関係者などを対象に、毎年基礎編2回と応用編1回が実施されている国際理解教育/開発教育教員セミナー。授業に役立つ参加型学習の手法を学ぶ場として、これから取り組んでみたいという人から、再度基礎を確認し授業改善に生かしたいという人まで幅広く参加できる内容となっている。

JICAと学ぶ開発教育

JICAでは、国内の各拠点で地域の学校や教育関係者と連携して、開発教育に役立つさまざまな取り組みやイベントを実施している。



四日市市立笹川小学校 教諭
藤川純子(ふじかわ・じゅんこ)さん(右から2人目)

三重県

**三重県 四日市市での
隊員OGの取り組み**

三重県四日市市立笹川小学校教諭の藤川純子さんは19年以上にわたって外国人児童の問題に向き合ってきた。藤川さんは日系社会青年ボランティア(現JICA海外協力隊)としてブラジルに赴任した際に、外国籍で就学年齢を超えた自分にも教育の機会を与えてくれた現地の教育制度の柔軟性に触れたことが、今の自身のキャリアを形成する大きなきっかけとなったという。

藤川さんは教員として子どもたちと向き合う一方で、外国人児童の高校進学率の低さを改善するための「多言語進路ガイダンス」の立ち上げに力を注いできた。ガイダンスには多言語に対応できるスタッフを集め、配布する資料も多言語に翻訳。小学生のうちから早めに日本の入試制度を理解してもらい、児童や保護者が進学に対する不安を解消できるように支援している。しかし、外国人児童を受け入れる態勢が整っていない学校があったり、県によって受け入れの対応が違っていたりする現状があるという。「本人の努力とは関係のない、進学における自治体間の格差をなくすことが重要です。三重県のみならず、さまざまな機関との連携や情報交換を積極的に行いながら、外国人児童が日本で学びやすい環境づくりを国全体で考える必要があります」と、藤川さんは今後の展望を語る。

